



その映画のために、
ある者は職を捨てた。
ある者は国籍を明かした。
ある者は祖国の地を踏んだ。
そして……

YO RU KA KE ヨルカケ

～映画『夜を賭けて』の日々～

企画：金守 珍 監督：毛利 匡 撮影：長田 勇 録音：清水 克彦 音楽：朴 保
プロデューサー：奥村 浩 2003/ビデオ作品/カラー/88分/ドキュメント

出演：映画『夜を賭けて』キャスト&スタッフ 宣伝美術：福田真一(アートン) 配給：クルージン 製作：「夜を賭けて」製作委員会
お問い合わせ：Crujin クルージン TEL.03-3496-9767 <http://homepage3.nifty.com/crujin/>





本作品は、映画『夜を賭けて』の もうひとつのエネルギーを記録したドキュメンタリーである。

集落、鉄道、川……。韓国中西部・群山に巨大なオープンセットを設営。オープンセット設営から映画作りに参加したのは、4800人のオーディションの中から選ばれた、在日韓国人と日本人の若者たち。自分たちの場所を探そうとする彼らは「アパッチ」と呼ばれた集落の住人を演じながら、切実な思いを秘めスタッフとしても体ごとぶつかっていった。葛藤を抱えながら困難を克服していく彼らと日本スタッフ、韓国スタッフそしてキャストが、国境や国籍、言葉の壁を越え「映画を作ること」で結束した。

2001年5月、オープンセット建設地は、何もない工場跡地だった。ここに「夜を賭けて」の集落を造るために美術の大塚聡（一級建築士）、プロデューサーで設営監督を務めた村松明彦、劇団新宿梁山泊の小檜山洋一、大賞賞らは、オーディションで選ばれた設営部隊（アパッチ）を率いて韓国へ渡った。

建築家と劇団員、オーディションに参加した若者たちという、映画の世界では全くの素人たちによる巨大なオープンセット設営がはじまる。

この、映画の常識を覆す無謀とも思える試みは、力強いエネルギーに満ちた旋回りの映画を世におくり出すことになる。

炎天下でのオープンセット設営、豪雨による撮影続行の危機、疲労困憊の夜間撮影、クライマックスの集落炎上シーンなど、過酷な局面をそれぞれの想いで乗り切っていく。150時間に及ぶ取材によって見てきたものは……。



サウンドトラック盤
夜を賭けて
音楽監督：朴保（ハワポー）
CPC8-3052
定価2520円（税込）



オリジナルアルバム
いつの日にかきと
朴保（ハワポー）
DDCZ-1014
定価2000円（税込）



マキシング
いつの日にかきと
朴保（ハワポー）
DDCZ-1013
定価800円（税込）

詳細は ▶ <http://homepage3.nifty.com/crujin/>



いつの日にかきと
著＝藤井誠二 写真＝山田茂
ISBN4-901006-41-X C0095
定価1200円＋税



ヨルカケ
著＝丸山昇一 &
「夜を賭けて」製作委員会
ISBN4-901006-40-1 C0074
定価1000円＋税

詳細は ▶ <http://www.artone.co.jp>

時代への挑戦 梁石日

映画「夜を賭けて」は、戦後五十八年を経て在日コリアンがたどりつた一つの象徴的なモニュメントである。象徴的というのは、それまでの在日文化の長い苦闘の蓄積があったことだが、同時に日本の状況を生きる在日コリアンの意識が北東アジアを背景にしたより大きな世界へ飛躍するためのステップとして、ある必然性に突き動かされ、強い願望と強い意志が合力となって、未来の扉を押し開いたからである。

そこでは古い世代の殻は脱ぎ捨てられ、新しい世代の力強いエネルギーが沸騰している。それまでの既成の組織や大言壮語しながら口ばかりの文化に無関心で傲慢な資産家たちがいっさい頼らず、五億という製作費を自力で作し、役者と裏方と製作会社が不退会の意志で一体となり、ついに成し遂げたのだった。このことは、これから後に続く若い世代に「やれば自分たちにもできる」という大きな勇気と希望を与えることになるだろう。また保守的な日本映画界においても従来のシステムによらない革新的な可能性を啓示していると思う。

梁石日（ヤン・ソギル）……映画「夜を賭けて」の原作者。1936年大阪市に生まれる。50年代後半より、在日朝鮮人の解放闘争に関わりながら、詩人金時鐘（キム・シジョン）らと同人誌を刊行。29歳の時、事業に失敗、各地を放浪したのちに10年間タクシー運転手を務める。のち文筆活動一筋。主な著書に、『夢魔の彼方へ』『タクシードライバー日記』『タクシードライバー』『崔洋一監督映画作品「月はどこに」の原作』『旅の果て』『アジアの身体』『夜の河を渡れ』『子宮の中の子守唄』『異端は未来の扉を開く』『雷鳴』など多数。98年『血と骨』で第11回山本周五郎賞受賞。近著には、『死は炎のごとく』『睡魔』『裏と表』『終わらぬ始まり』『闇の子供たち』がある。

夜を賭けて

第57回毎日映画コンクール2部門受賞！！
[スポニチグランプリ新人賞] 金守珍 [美術賞] 大塚聡
2002年度 第43回日本映画監督協会 新人賞受賞！！

1958年、戦後の焼け跡が残る大阪。造幣廠跡の廃墟に忍び込み、鉄屑（国有財産）を運び出し売り払うタフな連中が実在した。人知れず彼らは「アパッチ」と呼ばれた。川沿いに集落を構えて貧しい生活を営んでいた彼らに、急遽おとずれたGOLD RUSHの夢。警察に追われながら、船で運河を渡り真夜中に「お宝」を掘り出すアパッチ達。彼らは警官隊に最後の戦いを挑んでいく。したたかに生き抜いた在日朝鮮人のたくましく涙ぐましい生き様を通し普遍的なテーマを描いた作品。

監督：金守珍 原作：梁石日 脚本：丸山昇一 音楽：朴保
製作：「夜を賭けて」製作委員会、アートン、Sidus
配給：シネカノン 2002年/日韓合作/カラー/133分

全国順次公開中！！

詳細は ▶ <http://www.yoruwo-kakete.com>

新宿梁山泊 第29回公演

『唐版～風の又三郎』公演決定！！

6月29日～花園神社公演を皮切りに地方巡業

詳細は ▶ <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~s-ryo/>

◆7/19(土)～7/25(金)

「ヨルカケ～映画『夜を賭けて』の日々」

連日 21:00～22:23

◇当日◇一般¥1,500 大学生¥1,200

高中小・シニア¥1,000

◆7/26(土)～8/1(金) (完全入替制)

第1部『夜を賭けて』 12:40 17:00

◇当日のみ◇¥1,200

第2部「ヨルカケ～映画『夜を賭けて』の日々」

15:15 19:35

7/19(土)上映前
舞台挨拶(予定)

金守珍監督

「ヨルカケ～映画『夜を賭けて』の日々」

出演者

「ヨルカケ～映画『夜を賭けて』の日々」

前売鑑賞券¥1200(税込み)発売中

劇場窓口・チケットぴあ・阪急プレイガイドにて

*詳しくは右記劇場までお問い合わせ下さい



阪急・十三駅西口より徒歩3分
サカエマチ商店街中央サンボードシティ6F

第七芸術劇場

☎06-6302-2073
<http://www.nanagei.com/>